

三次市教育委員会会議録

1 日 時 令和8年2月27日(金)

開会 14時00分

閉会 15時10分

2 会 場 三次市役所本館 6階607会議室

3 出席委員 教 育 長 迫 田 隆 範
委 員 小 根 森 直 子
委 員 井 岡 直 美
委 員 藤 井 皇 治 郎

4 出席職員 教 育 部 長 宮 脇 有 子
教 育 部 次 長 豊 田 庄 吾
教 育 企 画 課 長 渡 部 真 二
学 校 教 育 課 長 新 谷 勝 治
学 校 給 食 担 当 課 長 小 原 謙 二
社 会 教 育 課 長 山 西 正 晃
教 育 企 画 係 長 高 野 寛 久

5 議事日程

(1)議案第51号 令和8年度就学児等の措置について

6 協議事項

(1)協議第5号 三次市立学びの多様化学校等の設置に係る検討会議の開催について

7 報告事項

(1) 報告第 19 号 三次市学校運営協議会の運営等に関する要綱の一部改正について

迫田教育長 ただいまから、教育委員会会議を開催する。

本日は小川教育委員から欠席の連絡をいただいている。

はじめに、前回教育委員会会議以降の状況について、4点報告する。

1点目は、市議会全員協議会についてである。

2月20日の市議会全員協議会において、学びの多様化学校及び小規模特認校の設置場所及び十日市小中学校改築工事基本設計の概要について報告した。学びの多様化学校は現在の君田中学校を活用すること、小規模特認校の設置場所は予定地の選定に至っていないことを説明している。また、十日市小中学校改築工事基本設計については、基本構想・基本計画を踏まえ、ワークショップや関係者との意見交換等を経て策定した内容を説明している。

2点目は、3月市議会定例会についてである。

3月市議会定例会は2月20日に開会し、3月16日までの予定で開会中である。2月24日から27日まで一般質問が行われ、14名の議員が質問に立たれた。教育委員会関係では9名の議員から52件の質問があった。具体的な内容について一部紹介する。

重信議員から学校給食費無償化について質問があった。国による学校給食費の負担軽減をうけ、本市においては市独自の予算措置による小中学校の給食費無償化を行うことや、今後も給食の質や量の確保・向上に努めること等を説明している。

増田議員、伊藤議員から小規模特認校について質問があった。学校再配置の中で学びの選択肢の広がりとして設置を予定していることや、現在設置場所についての見通しが立っていない状況であり、開設時期の見直しが必要と考えていること等を説明している。

竹田議員から児童クラブの民間委託について質問があった。保護者説明会を地域単位で実施したことを通して、保護者の理解を得ていること

や、支援員にも説明や意見交換を行い、民間委託への理解を得ていること等を説明している。

3点目は、教育関係行事の開催である。

2月21日に市民ホールきりりて小根森委員が実行委員長の「みよし教育フェスタ」が開催された。きりり吹奏楽クラブや市内高校等の協力も得て「TRI-NEXT越境部」11名及びみよし未来環境会議のメンバーの発表及び参加者との対話、講演等、充実したフェスタとなった。当日は約300名の参加があり、それぞれが自分事としてこれからのまちづくりやひとづくりを考える機会としていただいた。

2月22日には、みよしまちづくりセンターで「令和7年度みよしの歴史を探る～きみは、塩町式土器を知っているか！？」と題した講演会を開催した。約70名の参加があり、弥生時代の土器である「塩町式土器」をテーマとした講演を通して、本市の歴史・文化の価値を多くの方に知っていただく機会とすることができた。

4点目は、美術館関係である。

奥田元宋・小由女美術館では、少女まんが雑誌「花とゆめ」の作品が切り開いてきた少女まんがの世界や、読者に届けてきたときめきと感動の数々を楽しんでいただける展覧会「創刊50周年記念 花とゆめ展 in 広島」が4月14日まで開催中である。

また、三良坂平和美術館では「みらさかコレクション」と題した所蔵作品展を3月15日まで、「美術館あーとあい・きさ」では令和7年度吉舎町内園児・児童・生徒作品展を3月15日まで開催している。ぜひご覧いただきたい。

以上、教育長報告とする。

迫田教育長 これから議事に移る。議案第51号は人事案件のため、公開になじまないものとする。については、三次市教育委員会会議規則第14条第1項の規定により、議案第51号は非公開とし、協議第5号、報告第19号については公開が適当と考えるがいかがか。

委員一同 一異議なし

議案第 51 号 令和 8 年度就学児等の措置について
(人事案件のため非公開)

迫田教育長 続いて、協議第 5 号について事務局の説明を求める。

教育企画課長 —協議第 5 号資料に沿って説明—
以上、説明とする。

迫田教育長 3 つの論点に沿ってご意見をいただく。はじめに、論点 1 について質問や意見等あればお願いします。

小根森委員 めざす学校像やめざす生徒像は大変よいと思う。検討委員会で意見が出ていたが、両者とも素の自分を表現するという同じような内容だと感じた。もう少し話し合いが進むとどうなるか期待している。

井岡委員 小根森委員の意見と同じで、とても分かりやすくてよいと思ったが、検討委員会の意見も言われればそうだなと思った。

藤井委員 エッジをきかせた方がよいという意見もわかるが、エッジをきかせすぎるのもどうなのか。一般の学校も多くは同じ目標であるという意見もよくわかる。特徴のためにエッジをきかせた方が分かりやすいと思う。問題を解決する核になるものはもちろんあり、それだけではなく学力が伴う新しい場所づくりであると認識している。会議を重ねることでよりよい意見が踏襲されていくと感じる。

迫田教育長 誰にでも分かる表現で他の学校との違いをこの部分で語れることが必要だと感じる。学校としての意義について意見が出たが、社会的な自立に向けた部分を見定めておく必要があると感じた。皆さんの意見を踏まえ、事務局で整理させていただく。

続いて論点 2 についてご意見をいただきたい。

小根森委員 卒業後の段階をどの程度まで期待しているのか。おんせんキャンパスの卒業生はほとんどが通信制の高校に進学していた。三次市ではどの程度を考えているのか。

宮脇部長 現時点で学習にたどり着いていない生徒が多いため、まずは基礎基本の定着を図り、人と一緒に何かをするという社会性を身に着けるところが

一番大きい。その先に進学がついてくる。学習状況が子どもによって異なる。高校進学をめざしたいが、高校にも普通科から通信制まであり、それぞれの能力や希望に沿えるよう、まずは基礎基本の定着と人との関わり方を身に着けることが大きい柱である。

迫田 教育長 これは私の考えだが、学校に魅力を感じていないから行かないという部分が強くあると思う。不登校支援政策コーディネーターの山崎さんが教育支援ルームで学んでいる子ども達にヒアリングをしていただいている。その中で印象的なものは、教育支援ルームでは自分のペースで過ごせるという意見である。また、学校では他人に合わせるといふ苦しきがあるという子どももいた。学校に息苦しきを感じているため、自分のペースを大切にしたいという意見につながったのかもしれない。もう一つ印象的だったのが教職員についての意見である。他の子どもと違ふ扱いを受けたり、関わられたことがきっかけで先生に対する不信感が芽生えたという子どもが多かった。

不登校の原因は学校の問題だけではなく、家庭的な部分や本人の特性・多様性等複合的であるが、深掘りして聞いてみると周りとの関わり方によって、本人が言いたくても言えない辛い部分がある。検討会議でも肝は教職員であり、子どもや保護者としてしっかり関わることのできるほどの力量を持った教職員が置けるのかという意見が多くあった。

小根 森 委員 全員が担任となるチーム担任制が適していると思う。やはり人間同士のため、一人の担任とうまくいかなかったらしんどいと思う。

迫田 教育長 安全安心な居場所の体制ということで、一人ひとりと深く関わり、個性に応じて全員で伴走できる関わり方が大切だと思う。

井 岡 委 員 教職員の項目を見て、学びの多様化学校以外の学校でも当然のことだが、情熱を持って子どもをしっかり理解できる資質は必要だと感じる。子ども達の心に入っていけるような資質を見分けることはとても重要だと思う。

部長も言われたが、基礎基本の定着が抜けていると学習全体が崩れてしまう。ちょうど高校入試が行われている最中で、新聞に出題のねらいが

出ていたが、基礎基本の知識を応用して読み解き、データを分析するとあった。やはり基礎基本の定着は大切である。

藤井委員 10年前から様子が変わり、著しく変化が起きている。手探りの部分もあるため教職員が疲弊しすぎないように、現場のサポートも大切だと思う。チャレンジ精神がある職場づくりと計画通りに進める力が必要である。新たなものを作り上げていく構図や思いは欠かせないと思う。それでこそ三次市のモデルがつくられていく。

小根森委員 先日のおんせんキャンパスへの視察で、子ども達は学校に行けなくなる前から少しずつエネルギーが減り、ある程度まで達したら行けなくなると話を聞いた。自己肯定感を積み重ね、エネルギーがたまると外に出られるようになる。そのため、学びの多様化学校では普通の学校と同じではいけないと思う。まずはエネルギーを満たし、動けるようになれば勉強ができる。教職員の資質も大切だが、多様な人と関わることも大切だと思う。学力も大切だが、普通の学校と同じではいけないと思う。

迫田教育長 小根森委員が言われたが、資源を生かした体験・探究が、本市の学びの多様化学校の特徴である。みよしまるごとキャンパスと挙げているが、三次市の広さを魅力にし、色々な地域をキャンパスにして学ぶというものである。多様な人に出会い、豊かな経験を通して自信につながっていく。みよしまるごとキャンパスを実現するために、どのような魅力を取り上げればよいか、どのような工夫が必要か聞かせていただきたい。

井岡委員 先日の教育フェスタで高校生や中学生の講演を聞かせてもらったが、やはり体験は大事だと感じた。学校では出会えない人との出会いや家庭ではできない多様な体験が大切だと思う。これが実現できることが三次市の魅力であり、豊かな地域資源を生かせるところだと思う。

小根森委員 特に農業が盛んであり、米や畑、ブドウもある。そのような場所に子ども達を連れて行ってみるとよいのではないか。また、おんせんキャンパスでは自分たちが作りたいものを材料から集めて作って食べていた。創造性もあり、段取りを自分たちで考えることは頭を使うのでよいと思う。

迫田教育長 教育支援ルームでは月に1,2回調理をしており、ヒアリングでも共通し

た意見として調理が楽しかったと聞かれた。自分たちで考え、協力して何かを作ることはよい経験になると思う。

教育企画課長 本日欠席の小川委員よりご意見をいただいているので紹介する。

三次市にとって学びの多様化学校の設置は必須だと思うが、学校に通いづらい子ども達に豊かな教育をどのように保障するのか、資料を見せていただいても腑に落ちていなかった。先日おんせんキャンパスで取組を拝見し、思い描いていたことが自由かつ体系的に行われており、腑に落ちてきた。おんせんキャンパスでは、行政・学校・支援センター・保護者・地域が柔軟に連携しており、卒業生やその保護者が今でも関わっている様子を聞き、うまく機能しているのだと感じた。

また、児童生徒にかける言葉が押し付けになってはいけないと思っていたが、現場を拝見し、壁にかけてあった作文を読み、ともに目的に向かって協働していると感じた。三次市は、おんせんキャンパスを運営しているカタリバと連携をしているため非常に心強い。

以上である。

小根森委員 検討委員会の委員は見学に行っているのか。

教育部長 今のところ行ってはいないが、それぞれの分野で知見を持っておられると捉えている。

迫田教育長 一緒に視察には行けていないが、設置場所を君田中学校としたため、検討会議を君田中学校で行うことは考えている。

小根森委員 頭の中だけでは具体的なイメージを持つことが難しいと思う。映像でもよいのでイメージが共有できればよい。

藤井委員 三次は農業が盛んだということに共感した。若い方が就業している実態から、体験よりも仕事ぐらいのイメージで活動できるのではないかと感じた。季節に応じて様々な活動ができ、19 住民自治組織もあるため、色々な地域で体験ができると思う。

また高校も 3 校あるため、タッグを組み、最終的には地域に落とし込められればよいと思った。コミュニティ・スクールも動き出しているため、それらとの連携ができれば、さらに地域資源を生かせるのではないか。

井岡委員 学校名に学校という文言を入れない方がよいのではないかと思ったが、学校の設置には手順が必要でもあるため、学校という文言は必要なのだろうなと思った。行きやすいように学校名の工夫をすればよいのではないか。

迫田教育長 皆さんの意見を踏まえ、事務局で整理させていただく。その他なければ、協議第5号についてはよろしいか。

委員一同 一了承一

迫田教育長 続いて、報告第19号について事務局の説明を求める。

学校教育課長 一報告第19号資料に沿って説明一
以上、説明とする。

迫田教育長 質問、意見等あればお願いします。

委員一同 一質疑なし一

迫田教育長 それでは、報告第19号についてはよろしいか。

委員一同 一了承一

迫田教育長 以上で、本日予定した議事等は全て終了した。
本日の教育委員会会議を終了する。

終了時間 15時10分